

開館30周年記念

みんなく ウィークエンド・サロン 研究者と話そう

■時間：14:30～15:30(予定) ★3月30日のみ時間変更

■参加費：無料(ただし、常設展観覧料が必要)

*毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。
ただし、自然文化園を通行して来館される場合は、自然文化園の入園料が必要です。



焼畑のなかでトウモロコシの収穫を神に感謝するマヤ農民

実施日・話者・話題・場所

3月2日(日)

太田 心平 (先端人類科学研究部助教)
キリスト教でひもとく現代韓国
於:朝鮮半島の文化展示

3月20日(木・祝)

川口 幸也 (文化資源研究センター准教授)
アフリカのアート アートのアフリカ
於:アフリカ展示

3月23日(日)

鈴木 紀 (先端人類科学研究部准教授)
焼畑の恵みをいつまでも
於:アメリカ展示

3月8日(土)

吉本 忍 (民族文化研究部教授)
消滅した日本の織機
於:常設展2階展示場入口

3月22日(土)

菊澤 律子 (先端人類科学研究部准教授)
ことばと歴史のビミョーな関係
於:常設展2階展示場入口

3月30日(日)★時間 15:30～16:30

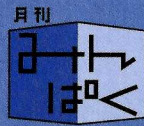
杉本 良男 (民族社会研究部教授)
インド 魅惑のサリー
於:南アジア展示

※詳細は、ホームページをご覧ください。都合により、予定を変更することがあります。

編集後記

中国製の冷凍餃子の事件をきっかけにして、日本の食糧がいかに中国に依存してきたのかを考えさせられる毎日。現在の日本人の暮らしは、中国との関係を無視しては成り立たない。その一方で、わたしたちは、中国のことをどこまで知っているのだろうか。パンダ、万里の長城、経済成長、オリンピックといった程度のイメージしかない。今月の特集では、西南中国というあまり聞きなれないことが使われている。地図を見ると中国の西南部はチベットであるように見えるが、東南アジアに隣接する地域をさしている。そこは漢族から見た西南部であり、チワン族、ペー族、トン族、ヤオ族など多くの漢族以外の多様な少数民族が暮らす「もうひとつの中国」が紹介されている。

2006年の4月から編集長を務めてきましたが、次号から編集長がかわります。この雑誌は32年目に入り、今後の雑誌のあり方をめぐってさまざまな意見が出ておりますが、あらたな発展を続けていくことと思います。引き続き御愛読くださるよう御願いたします。(池谷和信)



2008年3月号

第32巻第3号通巻第366号
2008年3月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敬夫

編集委員 池谷和信(編集長) 榎永真佐夫
久保正敏 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます

交通案内

■大阪・千里万博記念公園内

●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。

●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

